

本財団および森と水の源流館は、令和5年度からテーマ「価値を高める」を掲げ、水源地の村づくりに関わる様々な取り組みを推進しています。

価値を高める。（令和5年度～3年間継続）

- ・水源地の村づくりの価値を高める。
- ・教育支援活動の価値を高める。
- ・保全活動の価値を高める。
- ・流域連携の価値を高める。
- ・公益法人として役割の価値を高める。

この活動テーマを令和6年度も継続しつつ、川上村ならびに流域での持続可能な地域づくりに寄与する活動に取り組みます。

そして、多様な方面にとって価値のある存在となるよう、公益財団法人吉野川紀の川源流物語は活動してまいります。

令和6年度は、水源地の村づくりスタート（第3次総合計画）から30年目ですが、さらにその先にある、令和8年度「川上宣言30周年」を見据え、川上村が目指す「協働」の意識のもと、川上宣言の具現化・行動化を、より日常化できるよう、各取り組みを推進します。

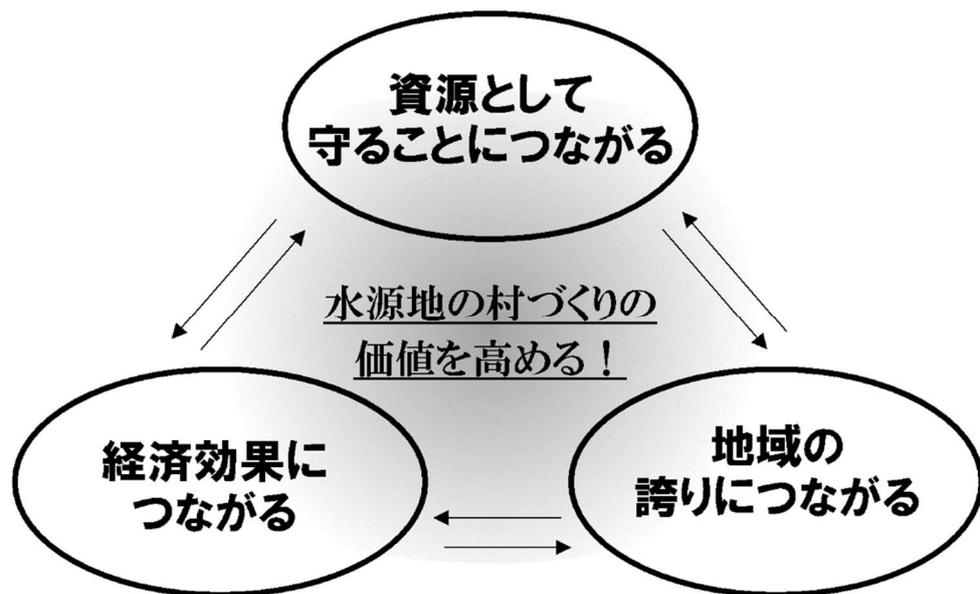
このため、当財団における様々な取り組みを単発的に終わらせることなく、関わった「ヒト・モノ・コト」を「仕組み」として関連する取組みにつなげていくことを意識するとともに、その結果として、構築された「仕組み」が持続可能なものとなり、川上宣言の具現化・行動化の成果として積み重なっていくよう取り組んでいきます。

1. 水源地の村づくりの価値を高める。

かわかみ源流ツーリズムの経営理念では、「資源保全」「経済効果」「協働」が重なる中心に『水源地の村づくり』が置かれています。つまり水源地の村づくりの推進は、この3点につながると言い換えることができます。私たちも常にこれを意識し、「資源として守ることにつながる」、私たち自体が儲けるといってだけでなく「経済効果につながる」、住民や事業者との協働にとって不可欠な「地域の誇りにつながる」活動を行います。

(令和6年度のポイント・方向性)

- ・ 良好な地域のコミュニティづくり
- ・ 地域資源を活用し経済効果につながる協働の仕組みづくり



2. 教育支援活動の価値を高める。

奈良教育大学等との連携体制によってESD (Education for Sustainable Development) に特化した発信が注目されています。これらを川上村の新しい教育の取組みの中でもいかしてもらえよう動いてまいります。

また村外の学校教育機関には、森と水の源流館と連携できることの価値が伝わり、さらに広がるよう、公益的視点を重視ながらも貴重性の発信に努めます。

(令和6年度のポイント・方向性)

- ・ かわかみ源流学園における「川上村公共塾(ふるさと力編)」の仕組みづくり
- ・ 「森と水の源流館授業づくりセミナー等」村外の学校教育機関との連携

3. 保全活動の価値を高める。

川上村の価値を高める資源の調査を進めます。大きくは自然系と人文系に分けて取組みます。村民からの聴き取りや関心のある村民といっしょに調査を進めるかたちを重視します。2年後の取りまとめをめざします。また、川上村の価値を共有するために、流域等の外部との比較が不可欠となることから、適度に外部との連携調査にも取組みます。

そして、水源地の森とともに活動のフィールドとしている「源流学の森」や「林業体験

の森」等においても、啓発だけに留まらず森の状況が良くなることが実際に見える保全活動を進めることによって、外部からの支援が得られるよう動かしていきます。

(令和6年度のポイント・方向性)

- ・役場各課が進める大学連携（の機会）と資源調査をつなぐ仕組みづくり
- ・水源地の森におけるナラ枯れ対策や下層植生保全対策の具体化検討

4. 流域連携の価値を高める。

当法人の活動の積み重ねで、川上村の吉野川紀の川流域連携の取組みも高い評価を得るに至りました。しかしここ数年のコロナ禍の影響によって、行き来が鈍化していることや、それぞれにおける人事異動、世代交代もあって、「紀の川じるし」をはじめとする「つながり」も見えにくくなりつつあることが懸念されます。新型コロナウイルスが「5類感染症」に位置づけられるなか、あらためて体制を点検し、人の流れ、モノの流れが活発にできるよう課題解決に動きます。また新たな仲間を増やしていくことをめざします。ここでも公益的視点を重視し、できるだけ教育を絡めるなどによって、さらに「紀の川じるし」の価値を高めるように努めます。

(令和6年度のポイント・方向性)

- ・自然資源・人文資源の調査・活用（流域の視点での連携）
- ・「紀の川じるし」と村の郷土料理や特産品との連携

5. 公益法人として役割の価値を高める。

20年前、この法人を設立する際に「第2の役場を目指す」という目標がありました。水源地の村づくりにおいて、政策づくりや施策推進を支援するいわば「シンクタンク」的な役割を担うということであったと思います。現事務局長は常にこれを意識し、森と水の源流館の運営や体験活動提供に収まらない幅で法人の役割を置いた展開に努めてきました。いま20周年を超えて、これまでの実績とノウハウをもって、この公益法人が川上村のシンクタンクとなる位置づけで機能できるよう、さらに活動の幅、人材の幅を広げます。

(令和6年度のポイント・方向性)

- ・川上村総合計画の推進支援
- ・「ダム後の10年その先へ」を意識した村の施策推進支援

(令和6年度 主な事業)

1. 公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

- (1) 「吉野川源流一水源地の森」体験プログラムの提供
 - ・ 定例水源地の森ツアー（3回）
 - ・ 団体毎の受け入れ（随時）
- (2) 森づくり体験プログラムの提供
 - ・ 「源流学の森」「林業体験の森」での保全活動（3回）
- (3) 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援
 - ・ 団体毎のエコツアー受け入れ（随時）
 - ・ 学校教育団体支援（随時）
 - ・ 森と水の源流館ESD授業づくりセミナー（近畿ESDコンソーシアム）
- (4) 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成
 - ・ 源流人会の運営
 - ・ 会員向け調査報告会の開催（1回）
 - ・ 川上村民の自主的な環境クラブ活動への支援（適宜）

2. 公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

- (1) 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施
 - ・ 源流のつどい（未来への風景づくり活動（草刈り他））
 - ・ 夏休みワークショップの実施（源流人会、流域関係団体との交流）
- (2) 水源地の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行
電子情報媒体の作成
 - ・ 流域連携・交流、啓発・PR（ESDの視点を強調 随時）
 - ・ 機関誌『ぼたり』刊行（3回）
 - ・ ホームページの維持管理
 - ・ 森守募金活動

3. 公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

- (1) 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施
 - ・ 吉野川紀の川しらべ隊（2回）
 - ・ 村民等と連携した自然調査・人文調査（各季）
- (2) 「吉野川源流一水源地の森」自然実態調査の実施
 - ・ 水源地の森自然実態調査（通年）
 - ・ 水源地の森下層植生調査（4地点）
- (3) 源流部における斜面崩壊地での対策実態調査
 - ・ ミズナラの集団枯死に伴う環境変化等の観察

4. 公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる業務

- (1) 展示を通じて情報発信を行う施設の管理
 - ・ 森と水の源流館管理（通年）
 - ・ 企画展等の開催
 - ・ リーフレット等の印刷

- (2) 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに附帯する施設の管理
- ・水源地の森、水源地の森交流施設管理（通年）

5. 収益事業Ⅰ ミュージアムショップ事業

- ・ミュージアムショップ事業（通年）

6. 収益事業Ⅱ 受託事業（いずれも予定）

- ・和歌山市民の森づくり（和歌山市）
- ・水のつながりプロジェクト（川上村）
- ・混交林誘導整備事業業務（川上村）
- ・川上村「公共塾」ふるさと力編推進業務（川上村）
- ・第5次川上村総合計画推進等支援業務（川上村）
- ・第5次川上村総合計画基本計画進捗管理支援等業務（川上村）
- ・第6次川上村総合計画策定等支援業務（川上村）
- ・「ダム後の10年その先へ」推進支援業務（川上村）

（いずれも予定）